



(有)ツルヤ商店

創業1907(明治40)年、会社設立1961(昭和36)年11月。藤(家具、インテリア製品)製造販売。

2006年には『ami』シリーズで山形エクセレントデザイン大賞受賞。会田源司代表取締役。山形市宮町5-2-27、電話023(632)4408

漸新さと伝統マッチング 東北で唯一の籐メーカー

2006年には『ami』シリーズで山形エクセレントデザイン大賞受賞。会田源司代表取締役。山形市宮町5-2-27、電話023(632)4408

でも細かいもの、堅いもの、と千差万別。茎についているトゲで他の植物にからみつき、長いものは200cm以上に達する。従って用途は広い。

山形デザインコンペティション実行委員会(県、山形県商工会議所連合会などで構成)は魅力的で競争力の強い商品づくりとデザインマインド向上を目指す事業として、山形エクセレントデザインを展覧、山形県内で企画・開発し、生産されている家庭用品、業務用品、公共用品の3分野の製品を対象に、優れたデザインの製品について、選定・顕彰を行っています。山形商工会議所は、キラリ山形発 元気なモノ作りシリーズ第2弾として、管内でエクセレントデザインに選ばれた事業所を紹介し、今月号は斬新なデザインで籐製品を製造販売している(有)ツルヤ商店



伝統の技と現代性を表現。『ami』シリーズの『isu』(左)はグッドデザイン賞受賞

『ラタン』。日本名を『とう』と言います。『籐』という漢字を当てる。竹の仲間でもなければ、藤のつるでもない。インドネシアなど熱帯雨林のジャングルに自生する。非常に生命力が強く、薄暗い森にわずかに差す太陽に向かってひたすら伸びようとする。強じんにしてしなやか。

父が創業した。近在の農家の人が採取してくるアケビやブドウを使い、手提げかご、脱衣かごをつくった。昭和に入り籐を扱い始めた。

「デザインで勝負だ」。ちょうどそのころ、県工業技術センターが、地場産業支援制度の一環として、デザインを活用したモノ作り、製品開発に取り組んでいた。同センターのデザイン開発講座に通い始めた。そこで紹介されたデザイナー米谷ひろし氏と組んだ。そうして、県エクセレントデザイン大賞、グッドデザイン賞を受賞する『ami』シリーズが誕生した。

その過程でデザイナーとの間で方針をめぐって相違が生じていた。「斬新なデザインを求めているはいた

が、(私どもは)売らなければならぬ。これまでの販売先、顧客が果たして理解してくれるか」

「人々は今、心の豊かさを求めている。海外原産のラタンを使い、海外にない製品を作り出す。そこに喜びがある」

(デザイン力で籐に生命を吹き込む会田氏。若手職人の育成にも力)



一方、米谷氏はいままではなかった籐製品にこだわっていた。直線的なデザインであり、そのためにフレームにステンレスを使った。籐は軽く曲げに強い。自然と丸みを帯びた形になるのが特徴。それが直線に戸惑いがあった。

「それまでになかったモノを市場に出すことによって、山形でこういう仕事をしている会社があることを知ってもらえる。自社のこれまでの製品にも目を向けてもらえる。やってみよう」。

伝統に基づく熟練の技が生きた。独自性が評価され、ブランド力が生まれた。それまでになかった銀座、西麻布、自由が丘といった都会の洒落た店から引き合いが来た。山形市宮町の工場には長短さまざまな籐が積まれ、その道50年以上のベテラン職人、そして若手が、黙々と手職の技を見せる。

「独自性もさることながら、東北で籐を扱っている工場はここだけになっちゃった。伝統を守り、生活に便利で、楽しく、潤いをもたらす商品を世の中に送り出して生きたい」。会田氏は若い人たちの作品発表の場にも、とオープンしたギャラリーストップで目を輝かせた。